

マクロ経済学		准教授 小松原崇史	
科目カテゴリ	国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナン スコースの専門選択科目、 経営・経済コースの専門選 択科目、 教職科目	科目ナンバリング	23222201 25320218

1. 授業のねらい・概要

マクロ経済学についての基本的な考え方を説明する。各国の経済成長の可能性をさぐるものが、マクロ経済学の目指していることである。本科目の履修にあたっては、「経済学基礎」を履修済みであることが望ましい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行う。講義の理解を深めるため、問題演習を行うこともある。学生の理解度に応じて、以下の授業計画は、多少変更する可能性がある。

3. 授業計画

1. マクロ経済学とは	9. 失業
2. 国民所得の測定① 国内総生産(GDP)の測定	10. 貨幣量の成長とインフレーション
3. 国民所得の測定② GDPの構成要素	11. 開放マクロ経済学① 財と資本の国際フロー
4. 国民所得の測定③ 実質GDPと名目GDP	12. 開放マクロ経済学② 国際取引にとっての価格
5. 生産費の測定 消費者物価指数	13. 総需要と総供給
6. 生産と成長① 生産性	14. 総需要に対する金融・財政政策の影響
7. 生産と成長② 経済成長と公共政策	15. 後半のまとめと復習
8. 前半の復習	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習する。そのためには、毎週2から3時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

解答を試験終了後に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

マクロ経済学についての基本的な考え方が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100％）により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I マクロ編（第3版）』2014年、東洋経済新報社を使用する。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とする。守れない学生に対しては、直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求める。